



# 東京アンダーナイト 昭和が愛したニューラテンクォーター

## ニューラテンクォーター元社長 山本 信太郎様

### 卓話者紹介 大原 正道会員

1935年福岡県博多生まれ、福岡大学卒業後の1959年、東京赤坂で日本最大、東洋最大の本格的ナイトクラブが誕生しました。連日上映される豪華なSHOWと贅を尽くした最高の内装、本物のサービス、洗練されたホステス達と、スケール、クォリティー共に、当時の世界最高レベルと言われたクラブ・ニューラテンクォーターを経営されていたらしやいました。

お客様でお見えになった松本清張先生の、「人生は人との出会いと触れ合いで決まる。」という言葉が今も心に残っております。本日、皆様とお会いしたのも大切な出会いであります。

ニューラテンクォーターは24歳で開店しました。松下幸之助氏、以外の各界の著名な方のほとんどと、皇族の方もお見えになりました。それが私の自慢の一つです。

旧ラテンクォーターは、昭和28年から31年まで営業しておりました。非常に評判が悪く、経営者はマフィアのような人でしたが、対外的な社長は、児玉誉士夫氏に相談して、児玉機関幹部の岩宮氏が就任したようです。その後、私が、新しいお店を任された時には、「ラテンクォーター」は悪評でも知名度があったため、ニューをつけて「ニューラテンクォーター」と命名しました。

ニューラテンクォーターの土地は、「ラテンクォーター」の前にあった、二・二六事件の際、反乱軍が立てこもった日本料理「幸楽」です。その幸楽が焼失した時に、地主と銀行の仲裁に入ったのが、私の叔父の吉田彦太郎と児玉誉士夫氏でした。そして、当時の外務大臣、藤山愛一郎氏が東洋一のホテルを計画しているという情報があり、「幸楽」の跡地を打診したところ承諾。それが後のホテルニュージャパンです。

その時に、幸楽で収入を得ていた若い衆の収入源のために、1階のロビーでレストランを営業することが提案され、その経営に、福岡にいた私の父、山本平八郎に声がかかりました。そして、父から東京行きを持ちかけられ、東京に行きたかった私は、昭和33年24歳の時に上京しました。

私は、レストランの経営経験がなかったので、クラブをやりたいと申し出ましたが、流石に藤山氏から反対され、妥協策として敷地の地下にクラブを造ることになりました。地下のため、工事期間も長くなり、当初9千万円の予算も膨らみました。設計は、当時、コンサートホール設計の第一人者、佐藤武夫氏にお願いしました。そのかいがあり、音響が良すぎてお客様からはうるさいとクレームがありましたが、タレントには好評で、トリオ・ロス・パンチョスを皮切りに、ナット・キ

ング・コール、サミー・デイヴィス Jr、ジュリー・ロンドン、パティ・ペイジと、当時、私が好きだったタレントを全部呼ぶことができました。自分の好きな音楽を聴いて、それが商売になり、お客様に喜んで頂け、大変幸せでした。

ニューラテンクォーター成功の一つは今のキョードー東京の前身、協同企画です。当時はプロモーターのない時代で、呼び屋と呼んでいた協同企画が出演交渉を行ない、協同企画の永島達司氏、内野二郎氏、嵐田三郎氏と私の4人で毎日机を囲み、次に呼ぶ外国タレントの話し合いをしました。来日を渋ったアンディ・ウィリアムスも、あのビートルズを呼んだ呼び屋ということで、来日を承諾し、その後、続々と海外タレントが来日するようになりました。

当時、コンサート会場がなく、ビッグタレントのショーを特選的に契約できたのも、成功の一つです。そして、店が地下のため家賃がありません。入口の8坪と裏口の4坪の合計12坪の土地代だけです。

30年間で大きな事件が二つありました。一つは開店して4年目、1963年に力道山の刺傷事件がニューラテンクォーターで起きました。私が東京で一番会いたかったのが力道山で、その憧れていた力道山が私の目の前で刺されたのです。ショックで、今でも思い出すとゾクッとします。

そして、もう一つは、ホテルニュージャパンのオーナーが藤山愛一郎氏から横井英機氏に変わったことです。特にホテル火災の後の7年間は横井英樹氏との闘いで、大変苦労しました。ホテルの土地を、横井氏と犬猿の仲であった国際興業の小佐野賢治氏が買いたいという話があり、その交渉役に私が抜擢されました。しかし、横井は悪人NO1、ケチでもNO1です。そのうえ、バックには亜細亜民族同盟がついていました。亜細亜民族同盟は店に押しかけ、閉店まで居座ります。これに困った私は、営業妨害はやめてくれ、横井氏の応援もやめてほしいと、亜細亜民族同盟の佐野会長に訴えました。その話の最中、私が福岡大学の空手部、佐野会長が拓殖大学の空手部だったことが分かり、空手の話で盛り上がりました。佐野会長は、「空手では山本が先輩。空手をしている人間は信じられるから、戦争はしない。」と言い、即座に横井氏から手を引いたのです。

まさに、松本清張先生のお言葉、「人との出会い」が私を育ててくれました。そして、この業界で生き残るために気を付けていたことは、「剛ならず柔ならず」です。「剛くなったらたたかれるし、弱すぎてもたたかれる。」これを肝に銘じていました。

今日のこの出会いにも感謝しております。ありがとうございました。

創立 1993年10月13日(平成5年)  
例会日 毎週水曜日 12:30~13:30  
事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2  
グランドメゾン九段906号  
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400  
<http://tokyo-orc.jp/> E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp

例会場 ホテルグランドパレス  
Tel: 03-3264-1111  
会長: 永井 一史 幹事: 西村美智子  
会報委員長: 松島 健  
会報委員: 木村・木宮・佐々木・八木・山下